

令和4年度第1回地域授業改善協議会

新大分スタンダードを意識した
単元構想による主体的・対話的で
深い学びの実現に向けた授業改善



令和4年4月
竹田教育事務所

R3学校訪問の授業参観から ～竹田教育事務所管内～

(よかったところ)

○ICTの活用

→提示としての利用だけでなく、協働的な学び
(意見交流等)での活用が多くなってきた。

○わかりやすい板書や掲示

→単元の流れや既習事項の掲示、UDの視点での視覚化、板書の構造化など、子どもたちが理解しやすくするための手立てがあり、何をどう学んだのかがわかりやすい板書が多い。

○主体性を持たせる工夫

→操作活動や教具、課題の工夫で主体性を高める等、対話的な学びの工夫が見られる。

(改善点)

△「振り返り」の質の向上

→「振り返り」の実施率は99.1%だが、「練習問題と答え合わせだけ」または「大まかな感想のみ」などの授業が見られる。
本時の学びを子どもがアウトプットできるように、さらなる工夫が必要。

△新大分スタンダードを意識した 単元構想による授業づくり

→本時のねらいや評価規準が曖昧だったり、「課題」と「まとめ」の整合性がとれていなかったりする授業がある。
→単元の指導計画をさらに意識してほしい。

R4の「授業改善」の重点は

令和4年度「授業改善」の重点 ～竹田教育事務所～

令和4年度 竹田教育事務所 重点方針



2 授業改善の徹底

□「新大分スタンダード」を意識した単元構想による授業改善

- 1時間完結型（「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定）
 - ◇ 育成を目指す資質・能力を明確にした単元計画の作成
 - ◇ 視点を設け、深い学びにつながる「振り返り」の実施

- GIGAスクール構想の実現に向けたICT（「入」台端末）の効果的な活用の推進及び習熟の程度に応じた指導

- ◇ 「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- ◇ 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫
- ◇ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- 板書の構造化及び板書とノートへの一体化
- 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開
- 小学校教科担任制の推進
- 自立した学習者の育成（校内での取組推進）

今日は
ここを中心に
説明します



以下のことをQ&A形式でお話しします

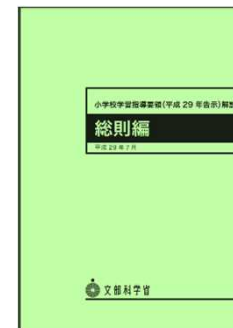
- ①単元の指導計画がなぜ必要なの？
- ②単元の指導計画はどうやって作ればいいのか？
- ③ねらいと評価規準設定のポイントは？
- ④「めあて」「振り返り」の設定で大事なことは？
- ⑤「課題」「まとめ」の設定で大事なことは？



①単元の指導計画がなぜ必要なの？

『学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』より

第3章 第3節 1(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
「(前略)また、主体的・対話的で深い学びは、**必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。すなわち、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。****
(後略)」



内容や時間のまとまりを見通し、指導の計画を立てることが大事



①単元の指導計画がなぜ必要なの？

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所）より

第1編 第2章 1(4)評価の計画を立てることの重要性

「学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現されたかについて、評価規準に照らして観察し、毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を児童生徒に育むためには不可欠である。その上で、評価規準に照らして、観点別学習状況の評価をするための記録を取るようになる。そのためには、いつ、どのような方法で、児童生徒について観点別学習状況の評価するための記録を取るのかについて、評価の計画を立てることが引き続き大切である。

毎時間児童生徒全員について記録を取り、総括の資料とするために蓄積することは現実的でないことから、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価するための評価計画が一層重要になる。」



適切に評価するために評価の計画を立てることが大切



①単元の指導計画がなぜ必要なの？

1時間1時間をバラバラで考えると、内容の重なりや指導の抜けを生み、必要以上に時間を使ったり、スムーズに展開しなかったりすることがあります。



単元全体のプランを描くことで、子どもが対話をする場面や調べる場面、教師が教える場面等を効果的に位置づけることができ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながります。



単元の指導計画に基づいた授業づくりをすることが必要

※単元全体を俯瞰的に見て、日々の授業を考えることも、カリキュラム・マネジメントによる教育活動の一つです。



(①単元の指導計画がなぜ必要なの?)

でも、授業は「1時間完結型授業」が基本ではないのですか？

『2020からの新しい授業づくりハンドブック』より

P3 ④ 1単位時間の授業構想における留意事項

単元の指導計画があって、1単位時間の指導があります

○まず、単元指導計画を作成し、単元における単位時間や役割や位置づけを明確にします。「1時間完結型授業」とは、単元における単位時間の役割や位置付けが明確な授業のことです。

○単元の評価計画に基づき、本時の評価規準を設定します。
本時の評価規準は、実際に評価できるような具体性のあるものにしましょう。



単元の指導計画があってこそ「1時間完結型授業」があるのです



②単元の指導計画は どうやって作ればいいの？

★「単元の指導計画」とは、
「単元の展開計画」と「単元の評価計画」を合わせたものです。

○作成する手順は、「早わかり!単元計画の作成手順」を参考にするとよいです。

早わかり! 単元計画の作成手順 ～小学校 理科 第3学年 「太陽と地面の様子」を例にして～

1. 指導内容(指導事項)を確認する ……「学習指導要領解説」を読みましょう!

- 指導するべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
- Aは、知識及び技能です。イは、思考力、判断力、表現力等です。

太陽と地面の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらと比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 日陰は太陽の光を遮るとで、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること。

(イ) 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあること。

イ 日なたと日陰の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、太陽と地面の様子との関係についての問題を見いだし、表現すること。

※解説書には、学びに向かう力、人間性等については、直接的には示されていません。該当単元の目標の欄に、記載されている事項を参考に作成する。

2. 単元の目標を設定する ……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう!

- 指導内容をしっかり理解した上で、単元の目標を設定します。
- 2行目が知識及び技能です。3行目が思考力、判断力、表現力等と学びに向かう力、人間性等です。

日なたと日陰の様子に着目して、それらと比較しながら、太陽の位置と地面の様子を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。

3. 単元の評価規準を設定する ……評価のための判断のよりどころを決めよう!

理科では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	・(A)について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現するなどして問題解決している。 ・(A)について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	・(A)についての事象・現象に適切に関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ・(A)について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。		
知識・技能 ①日陰は太陽の光を遮るとで、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している。 ②地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることを理解している。 ③太陽と地面の様子との関係について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	思考・判断・表現 ①太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現するなどして問題解決している。 ②太陽と地面の様子との関係について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	主体的に学習に取り組む態度 ①太陽と地面の様子との関係について、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②太陽と地面の様子との関係について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

○上表には、7つの評価規準があります。次に、この7つを単元の指導計画に従って分配していきます。

4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全11時間の中で、何時間目までの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。

単元の指導計画(例) 小学校3学年の理科「太陽と地面の様子」

時	学習活動	評価規準	評価の方法
1	○屋外に出て影の写真を取り、撮影した写真を比較し、問題を見出す。	<思考・判断・表現の①> 太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現している。	【記述分析】 問題を見出し、表現しているかを評価する。
2	○問題を設定する 【問題】かげはどのようなるか、にできるのだろうか。	<知識・技能の②> 太陽と地面の様子との関係について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	【記述分析】 影の影や長さ、向きなどを分かりやすく説明しているかを評価する。
3	○影ふみを午前と午後2回行い、時間を変えて行った影ふみの写真を比較し、自分なりの問題を見出す。 ○そのようにしたら影ふみがより上手にできるか話し合う。	<思考・判断・表現の①> 太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現している。	【発言分析】 問題を見出し、表現しているかを評価する。
(中略)			
10	○これまで学習したことをまとめ、影ふみのコツを考え、「かげふみブック」を作成する。	<知識・技能の①と②> ①日陰は太陽の光を遮るとで、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している。 ②地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることを理解している。	【記述分析】 ①②を、これまで学習した内容を踏まえて理解しているかを評価する。
11	○作成した「かげふみブック」を参考に、再度影ふみをする。 ○「かげふみブック」を見直す。	<主体的に学習に取り組む態度の②> 太陽と地面の様子との関係について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。	【行動観察】 【記述分析】 学習や生活に生かそうとしているかを評価する。

5. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的ににする

【単元の評価計画にある第3時の評価規準】

太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見出し、表現している。

【具体的にした第3時の評価規準】

2回の影踏みを通して、時刻による影の位置の違いに着目して、問題を記述したり、疑問を感じたりしている。

A児
「かげの位置は、時間によって変わっているのだろうか」

「おおむね満足できる状況」と評価

B児
「木がゆれたら、かげもゆれるのか」

「努力を要する状況」と評価

○評価計画に設定したものを、そのまま活用する場合もありますが、子どもの学習状況をつかむには、より具体化することが大切です。
○B児は、時刻による影の位置の違いに着目していません。だから、適切な支援が必要なのです。

もう一度写真を比較させ、2枚の写真を差異点や共通点を基に問題を見いだすよう支援を行う。

※この「早わかり!単元計画の作成手順」が全教科分つくられています。

↓
大分県教育委員会
義務教育課の
ホームページで
見ることができます。

早わかり！単元計画の作成の手順 ～小学校 算数 第6学年 「角柱及び円柱の体積」を例にして～

1
まずは、この単元でどんなことを指導するのか把握します。

1. 指導内容(指導事項)を確認する……「学習指導要領解説」を読みましょう！

○指導するべき内容を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
○「学習指導要領解説」には、下のように指導内容が示されています。
○アは、知識及び技能です。イは、思考力、判断力、表現力等です。

立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。	イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (イ) 図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。	※解説書には、主体的に学習に取り組む態度については、直接的には示されていません。 該当学年の目標の欄に、記載されている事柄を参考に作成する。
---	--	---



2. 単元の目標を設定する……単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

○算数科の当該学年の学年目標と内容のまとまりで示された内容をもとに、必要な記述を抜き出して単元の目標を設定します。
○(1)が知識及び技能。(2)が思考力、判断力、表現力等。(3)学びに向かう力、人間性等です。

(1) 角柱や円柱の体積の計算による求め方について理解し、角柱や円柱、複合図形の体積を公式を用いて求めることができるようにする。
(2) 図形を構成する要素に着目し、直方体や立方体の体積の求め方を基に、角柱や円柱の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことができるようにする。
(3) 直方体や立方体の体積の求め方を基に考えると角柱や円柱の体積を求めることができるというよさに気付き、角柱や円柱の体積を求めようとしたり、見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとするようにする。

2
この単元で、どんな力をつければよいか、ゴールイメージを持ちましょう。

3. 単元の評価規準を設定する……評価のための判断のよりどころを決めよう！

3
児童生徒の学習状況がどうあれば、ねらいが達成していると判断できるか、評価規準を確認します。

算数では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文末を「～している」「～できる」として、評価規準を作成する。	・文末を「～している」として、評価規準を作成する。	・文末を「～している」として、評価規準を作成する。
↓ 指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。 ↓		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 角柱や円柱の体積について、立方体や直方体の場合の体積の求め方を基にして、計算によって求めることができることを理解している。 ② 角柱や円柱の体積は、(底面積)×(高さ)で求めることができることを理解し、角柱や円柱の体積を求めることができる。	① 角柱、円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の立方体、直方体の体積の求め方を基にしたリ、図形の面積の学習と関連付けたりして考えている。 ② 体積の求め方を振り返り、式からどんな角柱も円柱も、(底面積)×(高さ)で求めることができることに気付き、公式として捉え直している。	① 角柱、円柱の体積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。 ② 底面積と高さが分かれば、公式に当てはめることで角柱や円柱の体積を求めることができるよさに気付いている。 ③ 角柱、円柱の体積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。
○上表には、7つの評価規準があります。次に、この7つを単元の指導計画に従って分配していきます。		

ここがけっこう重要なんです！
※観点・教科によって語尾が違うので注意して下さい。

4. 単元の評価計画を作成する

- 単元の評価計画を単元の展開計画と合わせて作成していきます。
- 全5時間の中で、何時間目にどの観点のどの評価規準について、どのような方法で評価するのか計画を立てます。



ここがけっこう重要なんです!

※記録に残す場面を精選して、記号(◎など)をつけ、明確にしておきます。

4-①
展開計画には、子どもが対話をする場面や調べる場面、教師が教える場面等を位置づけます。

時	学習活動	本時の評価規準	評価方法
1	四角柱の体積の求め方を、直方体の体積の求め方を基に類推し図や式を用いて考える。	<p><思考・判断・表現①> 角柱、円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の立方体、直方体の体積の求め方を基にしたリ、図形の面積の学習と関連付けたりして考えている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度①> 角柱、円柱の体積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。</p>	<p>【行動観察】 四角柱の体積の求め方を既習事項と関連付けて考えているかを評価する。</p> <p>【行動観察】 四角柱の体積を求める式を底面積を使って見直そうとしているかを評価する。</p>
2	三角柱の体積の求め方を考え、これまでの体積の求め方を振り返り、角柱の体積を求める公式を導き出す。	<p><知識・技能①> 角柱や円柱の体積について、立方体や直方体の場合の体積の求め方を基にして、計算によって求めることができることを理解している。</p> <p>◎<思考・判断・表現①> 角柱、円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の立方体、直方体の体積の求め方を基にしたリ、図形の面積の学習と関連付けたりして考えている。</p>	<p>【行動観察】 角柱の体積を、式を用いて求めることができるかを評価する。</p> <p>【ノート分析】 三角柱の体積も、底面積×高さで求めることができる理由を記述できているかを評価する。</p>
3	円柱の体積の求め方を考え、角柱、円柱の体積を求める公式をまとめる。	<p><知識・技能②> 角柱や円柱の体積は、(底面積)×(高さ)で求めることができることを理解し、角柱や円柱の体積を求めることができる。</p>	<p>【行動観察】 柱体の体積を、式を用いて求めることができるかを評価する。</p>
4	直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を、底面に着目して考える。	<p>◎<思考・判断・表現②> 体積の求め方を振り返り、式からどんな角柱も円柱も、(底面積)×(高さ)で求めることができることに気づき、公式として捉え直している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度②> 底面積と高さが分かれば、公式に当てはめることで角柱や円柱の体積を求めることができるよさに気付いている。</p>	<p>【ノート分析】 直方体を組み合わせた立体の体積も、底面積×高さで求めることができる理由を記述できているかを評価する。</p> <p>【行動観察】 直方体を組み合わせた立体の体積も公式を使って求められることよさに気付いているかを評価する。</p>
5	単元全体の学習内容についての定着を確認する。(単元末テスト)	<p>◎<知識・技能②> 角柱や円柱の体積は、(底面積)×(高さ)で求めることができることを理解し、角柱や円柱の体積を求めることができる。</p> <p>◎<主体的に学習に取り組む態度③> 角柱、円柱の体積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。</p>	<p>【単元末テスト】 柱体の体積を、式を用いて求めることができるかを評価する。</p> <p>【単元末テスト】 生活や学習に活用しようとしているかを評価する。</p>

4-②
3で計画した単元の評価規準を、単元の展開計画に従って分配していきます。

5
本時の評価規準は、実際に評価できるような具体性のあるものにします。

5. 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的に示す

第4時の評価規準【具体的に表記】

直方体を組み合わせた立体を角柱とみることで、その体積も、(底面積)×(高さ)で求めることができることに気づき、その求め方を説明している。

直方体を組み合わせた図形の体積を、どの面を底面にして考え、既習の公式を用いて求めたのかを記述している。

「おおむね満足できる状況」と評価

立体を分けて体積を求める方法しか理解できない。どの面を底面にすればよいか気付くことができない。

「努力を要する状況」と評価

新大分スタンダードの視点「習熟の程度に応じた指導」

立体模型を使うなどして、底面を視覚的にとらえられるようにして、(底面積)×(高さ)で体積を求めることができることを理解できるよう支援を行なう。





単元の指導計画をつくるの大変だなあ・・・

こんな工夫をしている人もいます。

(例)

○指導書の評価計画・指導計画を利用する

(例)

○教科部会で分担して作成
→全単元を共有

基本のフォームを基に、児童生徒の実態に合わせて
適宜修正して、自分用の単元の指導計画として使う

教科部会や学年部会、市の共有フォルダ等を利用して、
すでに作っているものを共有できると便利ですね。





③ねらいと評価規準設定のポイントは？

まずは「単元の目標」と「単元の評価規準」を確認します。

- 1 単元名 物語を読んで、
- 2 単元設定の理由
 - (1) 児童について
 - (2) 単元構成について
 - (3) 指導について

(例)大分県教育委員会HP学習指導案様式例【国語(小)】より

3 単元の目標

- ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができるようにする。 【知識及び技能】(1) 言葉の使い方に関する事項 オ)
- ・文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】(C) 読むこと オ)
- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】(C) 読むこと カ)
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え会おうとするようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

4 本単元における言語活動

「登場人物の生き方から考えたことを語り合う」活動を位置付けた。

(関連【思考力、判断力、表現力等】C(2)イ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにしている。	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基ついて、自分の考えをまとめている。 ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	・粘り強く、叙述に基ついて文章を理解し、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。

指導と評価の計画(全8時間)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価
一次(1)	○学習の見通しをもつ。	・主人公の「生き方」に着目して「海の命」を読むことを確認する。 ・初発の感想として、誰のどんな「生き方」に共感するか、また「太一の生き方をもとに自分の生き方を考えてみよう」という読みのめあてを持たせる。	

学習指導要領に示されている指導事項をもとに確認します。

※評価規準のフォーマット(語尾)は、教科ごとに違います。

- ★「早わかり!単元計画~」の3を参考にして下さい。
- ★または『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の第2編2②にも載っています。

【混同しないようにしましょう!】
言い方が少し違います。

<資質・能力の3つの柱では>

- 知識及び技能
- 思考力,判断力,表現力等
- 学びに向かう力,人間性等

<評価の観点では>

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度



③ねらいと評価規準設定のポイントとは？

本時のねらいには、**右の3つの要素**を入れます。

[ねらいの書き方の例]

- A 学習内容(～を、～について)
- B 学習活動(〇〇を通して、〇〇でまとめて、〇〇と比べて)
- C 育成を目指す資質・能力(△△できるようにする、△△に気付くようにする、△△を高める等)

※A～Cの3つの要素を入れる。

※Bにおいては、「順序付ける、比較する、分類する、関連付ける、多面的に見る、多角的に見る、理由づける、見通す、具体化する、抽象化する、構造化する」等の「考えるための技法」を意識する。

(1) 本時のねらい

三角形の midpoint どうしを結んだ線分の性質を、

A

相似な三角形や平行線と線分の比の性質の既習事項と関連付けて考察することを通して、

B

説明することができるようにする。

C

(2) 本時の評価規準

三角形の midpoint どうしを結んだ線分の性質を、

説明することができる。

※語尾は教師の立場で書きましょう!

について説明することができる。

【思考・判断・表現】



③ねらいと評価規準設定のポイントは？

<ポイント>

本時の評価規準は、本時のねらいと対応させましょう。
(ねらいのBの部分を省いたような内容になります。)

「概ね満足できる状況(B)」とする生徒の状況(姿)
を想定し、設定しましょう。

(2) 本時の評価規準

<豆知識>

ちなみに「説明する」ときの評価基準は…

数学では「**説明できる**」という言い方ですが、その他の教科(算数を含む)では「**説明している**」という表現になります。

三角形の midpoint どうしを結んだ線分の性質を、相似な三角形や平行線と線分の比の性質を用いて説明することが

できる。

【思考・判断・表現】

さらに、次の点について具体的にしておきましょう。

- 授業のどの場面で、どんな方法で評価するのか
- 本時の評価は、指導に生かすものか、評価の記録に残すものか
- 具体的にどんな姿(または記述など)があればA評価なのか
- B評価に到達していない児童生徒にはどのような支援(手だて)が必要か

繰り返しになりますが…

※評価規準のフォーマット(語尾)は、教科ごとに違います。
「早わかり!単元計画~」の3を参考にしてください。
(または『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の第2編2②を参照)

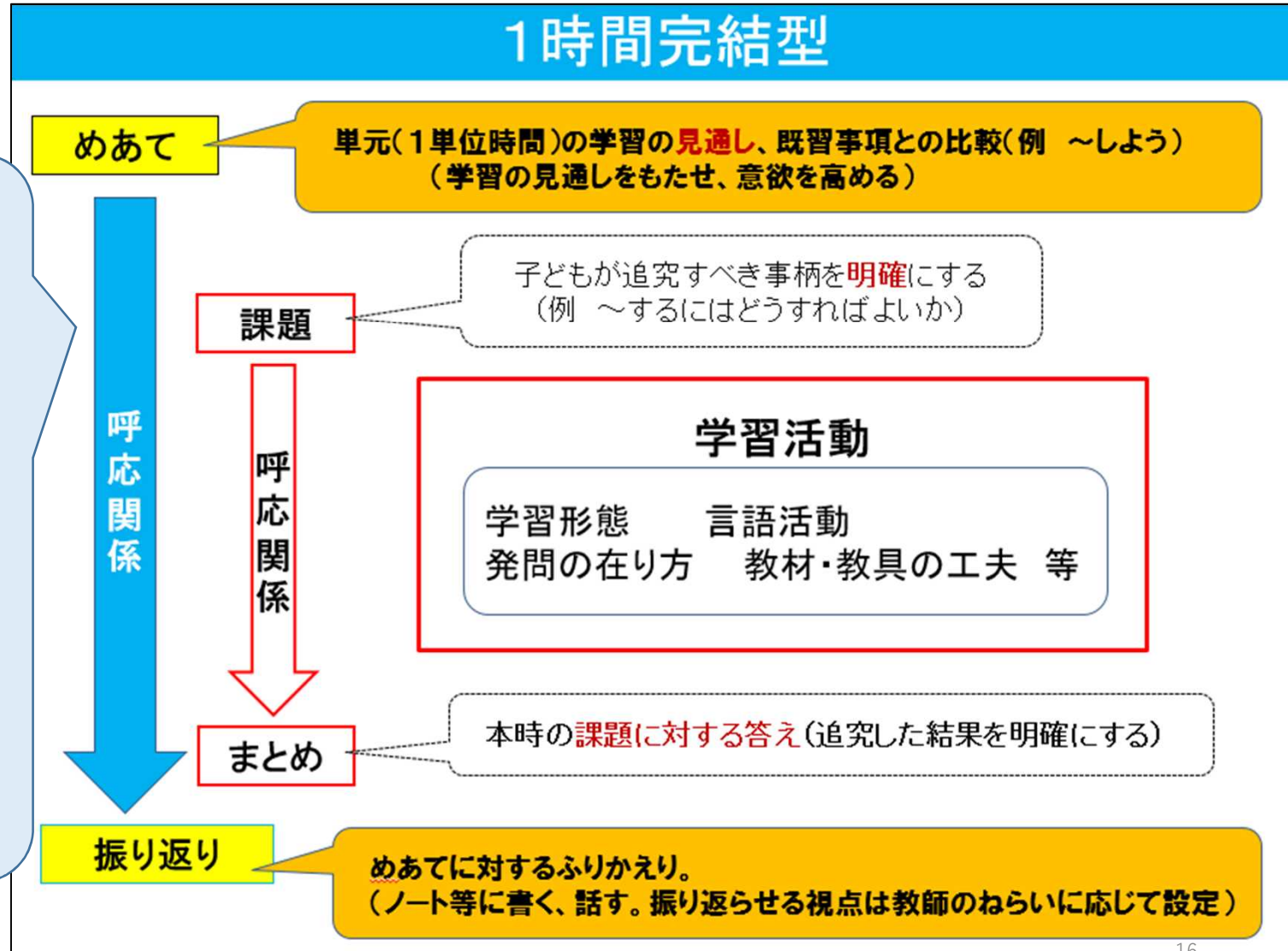


④「めあて」「振り返り」の設定で大事なことは？

★基本的に、本時の学習で何を学ぶのか見通すための「めあて」は、毎時間必ずあります。

(ただ、例えば、単元を見通した「めあて」を設定し、本時の授業が始まる前から、その「めあて」が意識されているのであれば、確認するだけでよい場合もあります。)

★「めあて」に呼応して、振り返りも毎時間設定します。





④「めあて」「振り返り」の設定で大事なことは？

「振り返り」とは

本時の学びを振り返らせ、自覚させるものです

△単に「感想を書きましょう」とすると、「おもしろかった」「楽しかった」などの反応が多くなりがちです……。

そこで

学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげられるように、具体的な視点を設けると、より効果的な振り返りになります。

(具体的な視点のポイント)

現在、過去、未来という視点で考えてみましょう

- 学習のプロセスや成果を振り返る(現在)
- 過去の経験や学習と関連付ける(過去)
- 次回の学びへつなげる(未来)





④「めあて」「振り返り」の設定で大事なことは？

「振り返り」の具体例

- ・何がわかったか（学んだことは）
- ・何が大切か
- ・何ができるようになったか
- ・友達の考えから学んだことは
- ・新しい発見や疑問に思ったことは

現在

- ・既習事項とどんな関連があるか
- ・日常生活（身の回り）との関連は

過去

- ・もっとやってみたい（調べてみたい）ことは
- ・改善するには何が必要か

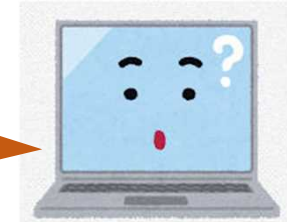
未来



④「めあて」「振り返り」の設定で大事なことは？

「新大分スタンダードに基づく授業改善Q&A」より

算数や数学の授業では、「振り返り」に練習問題を位置付けてはいけないのでしょうか。



【回答例】

算数や数学の授業では、授業の終末に練習問題を解き、その時間の学習内容や方法を児童生徒が確認する等の活動が考えられます。

ただし、下記の点に留意しましょう。

- 単に技能の定着を目的としないようにする。
- 練習問題を解いた後、ただの答え合わせで終わることのないようにする。
- 練習問題を解いた後（又は、解きながら）、解き方や考え方を友達同士で確認し合ったり、できなかった所や難しかった所を振り返ったりして、次の時間や家庭学習につなげるようにする。



練習問題を解いた後、「今日学習したことを使って、ペアの相手に解き方を説明して下さい。」などの活動を入れるとよいですね。



↓
インプットしたことを自分の言葉でアウトプットすることで、より学習した内容の理解を深め、定着させることができます。



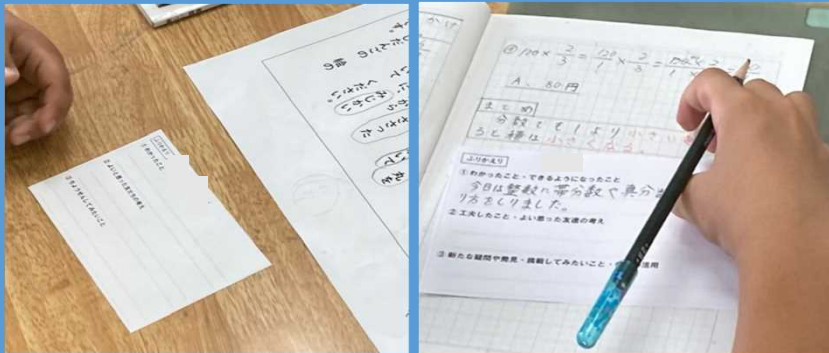
④「めあて」「振り返り」の設定で大事なことは？

「振り返り」の好事例その1

管内でもいろいろな工夫をしている学校があります。

<豊後大野市立菅尾小学校>

- 全学年(全教科)で、共通の振り返りシートの形式を使用
(Good) シートは同じでも、振り返りの視点は共通ではなく、授業者が授業に合わせたものを設定
- (Good) 同じ形式で積み上げていくので、習慣が定着し、振り返りをする力が向上



(国語)

- ①わかったこと
- ②よいと思った友だちの考え
- ③ちょうせんしてみたいこと

(算数)

- ①わかったこと・できるようになったこと
- ②工夫したこと・よいと思った友達の考え
- ③新たな疑問や発見・挑戦してみたいこと

<竹田市立菅生小学校>

- 「いつでもどこでも 振り返り メニュー」を作成・掲示
(Good) 授業者が授業に合わせたものを2つ程度選択して指示
- (Good) 授業内容や振り返りの時間に合わせて、量を調整できる

(例)今日の振り返りは、AとDについてノートに書いて下さいね。

いつでもどこでも
振り返り メニュー

A	授業を振り返って 何がわかった？(何ができるようになった？)	
B	授業を振り返って 自分で考え、発表できたことは？	
C	授業を振り返って 友だちの考えから何を学んだ？	
D	授業を振り返って 新しい発見や疑問(ぎもん)に思ったことは何？	
E	授業を振り返って もっとやってみたいことは何？	
F	授業を振り返って ()	





④「めあて」「振り返り」の設定で大事なことは？

「振り返り」の好事例その2

<豊後大野市立緒方中学校>

- 単元シートを活用(単元の流れと振り返りシートの一体化)
- (Good) 単元の流れを生徒と共有し、生徒も学習の見通しをもつことができる
- (Good) 下の欄には、単元を通しての振り返りが記入できる

単元「論理を据えて」 (2年 国語)

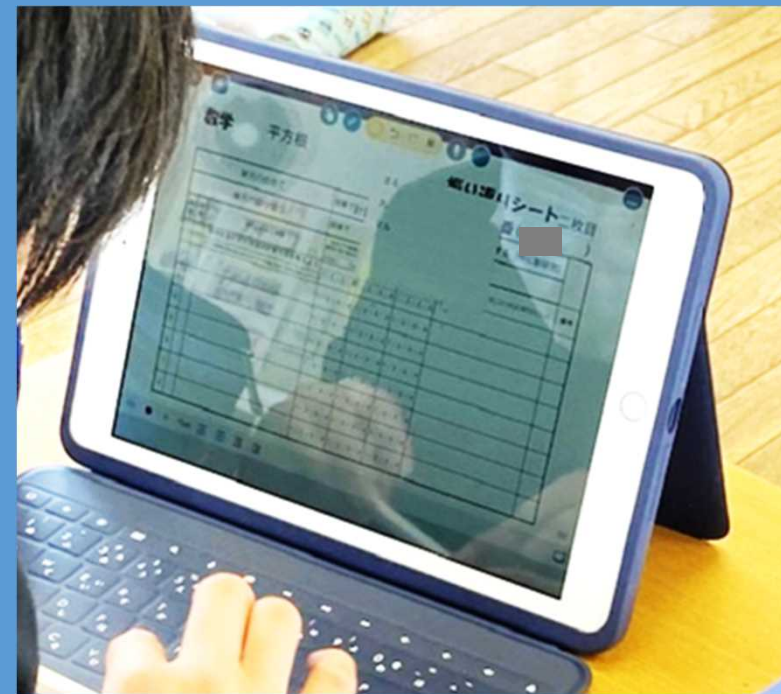
豊後大野市立緒方中学校

単元目標	今日めあて	知識・技能	思考	感情	自己評価	感想	
モアイは語る	①本文を読み、意味調べをする。	8/10	◎	○	○	①3-2-1	モアイの感情がわかるようになった。
	②本文を序論・本論・結論に分ける。	9/10	○	◎	○	①3-2-1	序論・本論・結論がわかるようになった。
	③問いと答え、根拠の関係を整理する。		○	◎	○	①3-2-1	自分の考えをしっかりと整理できた。
	④論理の展開を吟味する。		○	◎	○	①3-2-1	考えをまとめることができました。
	⑤筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。	1/10	○	◎	○	①3-2-1	筆者の主張の強さを理解し、自分の考えをまとめることができました。
討論異なる立場から考える	①社会生活の中から討論のテーマを決め、情報を集める。	7/10	◎	○	○	①3-2-1	社会生活の中からテーマを決め、情報を集めることができました。
	②自分の立場を決め、根拠を吟味し、反論の答えを考える。	7/10	○	◎	○	①3-2-1	自分の立場を決め、根拠を吟味し、反論の答えを考えることができました。
	③人の立場や考えを尊重しながら、討論する。	1/10	◎	◎	◎	①3-2-1	人の立場や考えを尊重しながら、討論することができました。
④討論を振り返り、多角的に考えたり、考えに深まりや広がりがあったかを伝え合う。							

⑤単元を終えての感想(この単元で学んだことや身についたこと)

<竹田市立久住中学校>

- 振り返りシートをロイロノートで記入・提出
- (Good) 配付や回収の時間が省略できる
- (Good) 教師が内容を確認したり、コメントを記入して返すことができる
- (Good) めあて等を記入し単元を通して学んだことが見える





⑤「課題」「まとめ」の設定で大事なことは？

児童生徒にとって魅力ある「課題」にしましょう！

魅力ある課題って？

- ・生徒が追究したい（調べてみたい、考えてみたい）と感じるもの
- ・児童生徒が解決のための見通しをもつことができるもの
- ・児童生徒の興味・関心や意欲を高めることができるもの

課題とは、その時間に解決すべき事柄です。

★「なぜ～なのか」「～することができるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示すことが多い

（※課題には、内容のまとまり等の複数時間にまたがり追究していく課題もあり得ます。）



⑤「課題」「まとめ」の設定で大事なことは？

「課題」を設定する際に、留意すること

①前時の振り返りや、素朴な驚きや疑問から、問題意識を喚起する。

(例) 疑問から課題へ
つなぐ



(課題) 火災発生現場では、誰がどのような働きをしているのだろうか



⑤「課題」「まとめ」の設定で大事なことは？

「課題」を設定する際に、留意すること

②「既習事項とのズレ」「適度な壁」「意見の対立や拮抗」がある。

(例) 既習事項とのズレから
課題へつなぐ

(既習事項) 長方形の面積の求め方
正方形の面積の求め方

「今日はこの面積を求めよう」

平行四辺形？！

長方形みたいに、縦と横
をかければいいのか？

ななめになっている部分
があるけど、同じようにして
もいいのかな？

(課題) 平行四辺形の面積はどのようにして求めればよいのだろうか



⑤「課題」「まとめ」の設定で大事なことは？

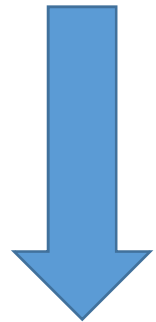
「課題」を設定する際に、留意すること

③追究すべき事柄を明確にする。

(例) より明確な課題へ

(課題)世界恐慌とはどのようなことか。

改善点



子どもが何を解決すればよいのか
焦点化する

(課題)世界恐慌は、世界にどのような影響を与えたのか。



⑤「課題」「まとめ」の設定で大事なことは？

「課題」を設定する際に、留意すること

その他にも

(例) 対比から課題へつなぐ
(2つの資料)



(A:人口が増えている)
⇔ (B:ゴミの量が減っている)
人口が増えているのに、ゴミの量が減っているのは？

→(課題)
ゴミの減量には「どのような工夫や努力」があるのだろうか

(例) 対比から課題へつなぐ
(時間の経過)



600年前の地域の芸能

現在の地域の芸能

なぜ変わらないで続いているのか？

(課題)地域の芸能を誰がどのように受け継いだのだろうか



⑤「課題」「まとめ」の設定で大事なことは？

児童生徒自身の言葉による「まとめ」をしましょう

- ① 「課題」に対する「まとめ」を、まずは、児童生徒**自身の言葉**で自分のノートに書かせる。
- ② 児童生徒の「まとめ」に修正が必要な場面では、児童生徒が自分で書いた「まとめ」は消させず、その下に書かせる。

※ 自分のまとめ ⇔ 先生のまとめ

「まとめ」の方法

- ① **キーワード**指定してまとめる
- ② **文の書き出し**を指定してまとめる
- ③ **字数**を制限して、まとめる など



おわりに

授業改善の際、参考となる資料を紹介します。

「振り返り」についてもっと詳しく知りたい

大分県教育センターHP

『授業づくりのポイント「振り返りの充実」について』

小・中学校

授業づくりのポイント

「振り返り」の充実に向けて



令和3年6月
大分県教育センター教科研修・ICT推進部
(監修) 上越教育大学 准教授 河野 麻沙美 先生

○新しい学習指導要領が、小学校では令和2年度、中学校では令和3年度から全面实施となりました。児童生徒に必要な資質・能力を育むための「学びの質」に着目し、授業改善の取組を活性化していくための視点として「主体的・対話的で深い学び」が示されました。
○これまで以上に、児童生徒が、何を、どのように学び、何ができるようになったのか等、自身の学びの過程や変化を自覚できる場面(振り返り)を重視し、授業改善を進めることが必要になります。
○大分県教育委員会では、「新大分スタンダード」による授業改善を進めるなかで、「1時間完結型授業」の要素の一つとして「振り返り」を取り上げています。(http://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/2001503.html)
○ここでは、あらためて、新学習指導要領の考え方を踏まえ、授業における「振り返り」のポイントを整理しました。

1. 「振り返り」の質を向上させるための5つのポイント、13の視点

「ポイント」	振り返りの「視点」
【1】「振り返り」の目的を確認する。	① これまでの学びを自覚する。 ② これからの学びを見通す。 ③ 次の学びを生み出す。
【2】学習時間のまとまりを意識させる。	④ 1単位時間を振り返る。 ⑤ 単元全体を振り返る。 ⑥ 複数の単元を関連付けて振り返る。 ⑦ 他教科等と関連付けて振り返る。
【3】「振り返り」の内容を焦点化する。	⑧ 学習集団の「めあて」「課題」及び自己の「めあて」「課題」から振り返る。 ⑨ 学習の過程を振り返る。 ⑩ 認知の過程を振り返る。
【4】「振り返り」を振り返らせる。	⑪ 自己の成長を自覚する。 ⑫ 「振り返り」を批判的に検討する。
【5】他者と「振り返り」を共有させる。	⑬ 他者の「振り返り」の内容を自分の学びに生かす。

*指導の目的や意図に応じて、振り返りの「ポイント」や「視点」を意識し、授業改善につなげましょう。

具体的な振り返りの例も紹介されていますよ。



組織的な授業改善をすすめたい

大分県教育委員会 学校教育HP

「目標達成に向けた組織的な授業改善」推進手引き

(小・中学校版) (改訂版)

「目標達成に向けた組織的な授業改善」

推進手引き (小・中学校版)

(改訂版)

【授業改善テーマ】



【授業改善の重点】



【取組内容】



【取組指標】



【検証指標】

令和3年 3月
大分県教育委員会

目次

○ はじめに	1
○ 「求められる授業像」	2
○ 「目標達成に向けた組織的な授業改善」の推進	7
～マネジメントサイクルを取り入れた授業改善～	
～授業改善5点セットの具体例～	
1 PLAN 授業改善計画の立案と体制作り	
(1) 学校の教育目標と連動した授業改善テーマの設定	11
(2) 授業改善5点セットの作成手順	12
(3) 授業改善計画の作成	16
(4) 管理職による授業改善の推進	17
(5) 授業改善の体制作り	18
2 DO 授業改善の推進	
(1) 授業実践	19
(2) 研究協議	20
(3) 研究授業	21
(4) 教科部会・教科会議	23
3 CHECK 成果と課題の分析	25
4 ACTION 新しい授業改善計画の立案と実施	27
○ 学力向上プランの作成	29
○ おわりに	31

教務主任や研究主任の方に、ぜひおすすめです。学力向上プラン作成にも役立ちます





おわりに

授業改善の際、参考となる資料を紹介します。

「考え、議論する道徳」の授業づくりをしたい

大分県教育委員会 義務教育課HP
『「考え、議論する」道徳科授業へ』参照

道徳科授業研修資料
『「考え、議論する」道徳科授業へ』(DVD)
※令和4年3月末に各学校1枚配付されています。

校内研修での活用はもちろん、個人研修での活用にも役立ちます。



「考え、議論する」道徳科授業へ

印刷ページの表示 ページ番号: 0002167118 更新日: 2022年3月4日更新

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から道徳が教科化となり、年間35時間の授業を実施し「考え、議論する道徳科の授業」への質の転換が求められています。そこで、大分県教育委員会では、道徳教育のさらなる充実に向けて、道徳科授業研修資料『「考え、議論する」道徳科授業へ』(DVD)を作成し、各学校へ配付しました。

各学校や各地域の道徳研究会等でご利用いただき、「考え、議論する道徳」の授業づくりの参考にしていただきたいと思います。

DVDの活用方法等については、随時Webサイトでお知らせいたします。

以下に、授業動画及び指導案等のデータを掲載しています。指導案・資料は、ダウンロードして研修にご活用ください。

	授業動画及び指導案等
	DVDに収録した授業動画(リンク先:教育庁チャンネル) 指導案等(PDFデータ)
小学校版	道徳の授業を考えよう 村松市立山崎小学校 3年 教師 社会員 栗原 志 主題 「思いやりで「かたしだてて」(古文書)」 【指導案】 第2学年道徳科学習指導案「かたしだてて」(古文書版) [PDFファイル/185KB]
中学校版	道徳の授業を考えよう 大分大学教育学部附属中学校 2年 教師 志保 明彦 氏 主題 「礼儀「皆さんの心」(村岡回書)」 【指導案】 第2学年道徳科学習指導案「皆さんの心」(村岡回書) [PDFファイル/509KB] 【参考資料】 京都産業大学 教授 柴原 弘志 氏 講話資料 [PDFファイル/194KB]

※活用について
DVDは、「校内研修」「個人研修」等、各学校及び各地域の実情に応じて活用ください。

- (例)
- ・校内研修等で映像を視聴し、工夫点を見つけたり、改善点を話し合ったりする。
 - ・大学講師の講話を聞き、理論研修を行う。
 - ・個人で指導案と授業映像を見て、自分の授業を振り返り、授業改善に生かす。

新大分スタンダードを詳しく確認したい

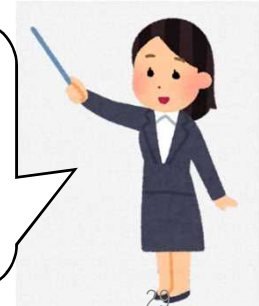
大分県教育委員会 義務教育課HP
『新大分スタンダードに基づく授業改善Q&A』



この研修資料の中にも、この資料からいくつか引用しています。Q&A形式でわかりやすく説明された資料です。



今皆さんが行っている授業を少し変えるだけでも、授業改善につながります。例えば、「問いかけ方を変える(子どもの意欲が変わる)」、「本時のゴールを教師が明確にする(子どもの見取りが明確になる)」など、できるところから進めて下さいね。



学校訪問の際は、この単元計画案を提出していただいています。



(様式5) 単元計画案

年 組		教科		学校		指導者	
(小)単元・題材の「めあて」		主たるものに「◎」を記入してください。					
計画							
本時に○	時間	めあて				評価の観点	ICTの活用
	第1時					知・技	ICT
	第2時						
	第3時						
	第4時						
	第5時						
	第6時						
	第7時						
本時の流れ							
ねらい							
本時の評価規準	評価の規準の最後に、評価の観点を記入してください。 (【知識・技能】、【思考・判断・表現】、【主体的に学習に取り組む態度】のいずれか。)						
評価場面	評価の規準の文末表現については、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の第2編2の「【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。」を参考にするとよいです。						
めあて							
課題	「まとめ」は、「課題」に対する答えになっていますか。						
まとめ							
振り返り	「振り返り」は、何を問うのか(視点)、どのようにするのか(ノートに記入、発表させる等)も記入してください。						
指導における工夫など							
「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫							

【単元・題材のめあて】
 ・単元・題材の「ねらい」を児童生徒の立場で示したものを。
 ・付けたい力を身につけさせるための、めあて「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」を示すもの。
 ・学習の児童しをもたせ、意欲を高めるものになるよう工夫する。

【めあて】
 ・付けたい力を身につけさせるための、本時でめあて「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」。
 ・単元や題材の「めあて」を指示することもある。

【評価の観点】
 ・その時間に評価する内容の観点到◎または○をつける。(主たるものに◎)

【ICTの活用】
 ・その時間ICTの活用がある場合は○をつける。

【ねらいの書き方の例】
 A 学習内容(～を、～について)
 B 学習活動(○を通して、○○でまとめ、○○と比べ)
 C 育成を目指す資質・能力(△△できるようにする、△△に気づくようにする、△△を高める等)
 ※A～Cの3つの要素を入れる。 ※Bにおいては、「順序付ける、比較する、分類する、関連付ける、多面的に見る、多角的に見る、理由づける、見直す、具体化する、抽象化する、補完化する」等の「考えるための技法」を意識する。

【本時の評価規準】
 ・単元の評価規準、評価計画に基づき、本時の教材・学習活動から、指導者が「おおむね満足できる状況」を設定する。
 ・【 】の中に評価の観点を記入する。・特別支援学級での自立活動においては【観点】の記入は不要。

【評価場面】
 ・ワークシートの記載内容(振り返りの内容)・ノートに記載された内容・発言、論議などの内容(ペアグループ活動)
 ・発表の様子(原稿、遊戯など)・ポートフォリオによる思考の質の高まり、実習・レポート、グラフ、表、作品などの成果物

【課題】
 その時間に解決すべき事情。「なぜ～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるかなど、疑問形で示すことが多い。

【まとめ】
 本時の「課題」に対する答え・結論にあたる。
 ※授業中に児童生徒から出された言葉や授業のポイントとなる言葉を活かしながら位置付けていくことが望まれる。
 ※めあて、課題、まとめ、振り返りの4つが毎時間の授業で必要というわけではない。提示の順序やタイミングも授業によって変化する。数時間にまたがって4つの要素を設定した授業も考えられる。

【振り返り】
 めあてに対する振り返り、学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等が次につなげられる視点を設定することが望ましい。
 ◎ 学習のプロセスや成果を振り返る。
 ◎ これまでの経験や学習と関連付ける。
 ◎ 次回の学びにつなげる。

【「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫】
 評価規準と照らし、【C 努力を要する状況】にある児童生徒に対し、具体的にどのような手立てを選択するかを、児童生徒の状況から全体への支援だけでなく、児童生徒のつまずきを予想したうえで個別の支援を

記入例もあります。

Excelシートの(様式5)(記入のポイント)を、ぜひ参考にしてください。